岩国基地周辺における令和６年度の航空機騒音の状況

令　和　７　年　５　月
山口県基地関係県市町連絡協議会

令和６年度の岩国基地周辺の航空機騒音の状況を以下のとおり取りまとめた。

１　概況

【月別W値の推移】

○　令和６年度は、例年と同様に空母艦載機によるＦＣＬＰ前後の訓練等の影響により、４月～５月のW値が高くなったが、５月下旬に艦載機が岩国基地を離れて以降は減少した。

その後、艦載機が帰還した１１月以降は、帰還前と比べると騒音は増大したが、令和５年度の同時期と比べると、概ね下回る水準で推移した。

- ４～５月は、例年と同様のＦＣＬＰ前後の基地周辺での集中的な訓練や、九州沖の洋上の空母で実施されたＣＱに伴う夜間離着陸などの影響により、例年同様、W値が高くなった。
- 例年８月から９月にかけて空母艦載機が一時帰還するが、令和６年度は空母の交代があり、帰還しなかったため、一時帰還があった令和４年度や令和５年度と比べて、８月・９月のW値は低くなった。
- その後、艦載機が帰還した１１月以降は、帰還前と比べると騒音は増大したが、令和５年度の同時期と比べると、概ね下回る水準で推移した。

【過去の年間測定値等との比較】

○　空母艦載機移駐後（平成３０年度～令和５年度）との比較

【令和５年度との比較】
- 比較可能な２８地点中２７地点でW値が減少した。

【平成３０年度～令和５年度との比較】
- 比較可能な２８地点中、令和６年度が最大値となったのは１地点であった。

○　空母艦載機移駐開始前（平成２４～２８年度の平均）との比較
- 比較可能な２１地点中１９地点でW値が増加しており、中でも基地北西側、基地近辺の西側、飛行ルート近辺の北東側で増加した。

《米軍機の運用等の状況》

時　　期	主な運用、地元への影響等
４月～５月	ＦＣＬＰ前の訓練（岩国基地周辺で実施） →騒音の増大
５月４日～１３日	ＦＣＬＰ（硫黄島で実施）
５月１７日～２２日	ＣＱ（九州沖の洋上の空母で実施） →訓練場所への往復に伴う夜間離着陸等による騒音増大
（８月～９月）	（例年、艦載機が岩国に一時帰還し、滞在中に訓練を実施するが、令和６年度は空母の交代があり、帰還しなかった）
～９月	海兵隊機（常駐部隊・２部隊）機数変更【約８機減】 約３２機（16 機×2 部隊）→ 約２４機（12 機×2 部隊）
１１月１７日頃 ～（現在）	艦載機*が岩国に帰還（滞在中）→騒音の増大 （*機種更新により、F-35C 及び CMV-22 ｵｽﾌﾟﾚｲが配備）
３月８日頃	海兵隊機（ローテーション部隊）交代 F/A-18 部隊が帰還し、新たに F-35B 部隊が岩国基地に配備

《空母の横須賀入港日数》

令和６年度の空母の横須賀入港日数は、令和５年度や過去１０年平均より少ない。

令和４年度	令和５年度	令和６年度	過去１０年平均
１７３日	２１７日	１７１日	１９７日

２　航空機騒音の指標・測定体制

○　基地周辺地域の騒音の状況について、航空機騒音の総合的な指標であるW値により把握、比較を行った。

○　基地周辺地域においては、現在、国、県、岩国市が設置した騒音測定器（３４地点）により、測定を行っている。

○　新設・移設により各時期の測定地点数は異なっており、令和６年度の測定値（３４地点）と比較可能な地点数は以下のとおり。

比 較 対 象		比較可能地点数	うち県内
過去の測定値	艦載機移駐後各年度（平成３０年度～令和５年度）	２８	２３
	艦載機移駐開始前５年平均（平成２４～２８年度）	２１	１６
	沖合移設前５年平均（平成１７～２１年度）	８	７

３　航空機騒音の状況

（１）月別W値の推移

《月別最高値の地点数（令和６年度）》　　（単位：地点）

	４月	５月	６月	７月	８月～９月	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月
月別最高値の測定地点数（全 34 地点※）	6	１２	0	1	0	5	3	5	2	3	1
うち県内（29 地点※）	6	１２	0	0	0	5	3	2	1	3	0
主な地点	三角町 91.6W 尾津町 77.3W	三笠町 72.8W 新港町 70.6W	―	江田島市沖美町畑 52.1W	―	由宇町有家 73.5W 由宇町港 71.2W	由宇町神東 69.6W	旭町 75.9W 川口町 75.0W	周防大島町東三蒲 69.3W	装束町 61.7W 周防大島町久賀 59.2W	廿日市市八坂 57.9W

※複数の月で同値の最高値を示した地点が４地点あるため、測定地点数の計とは一致しない

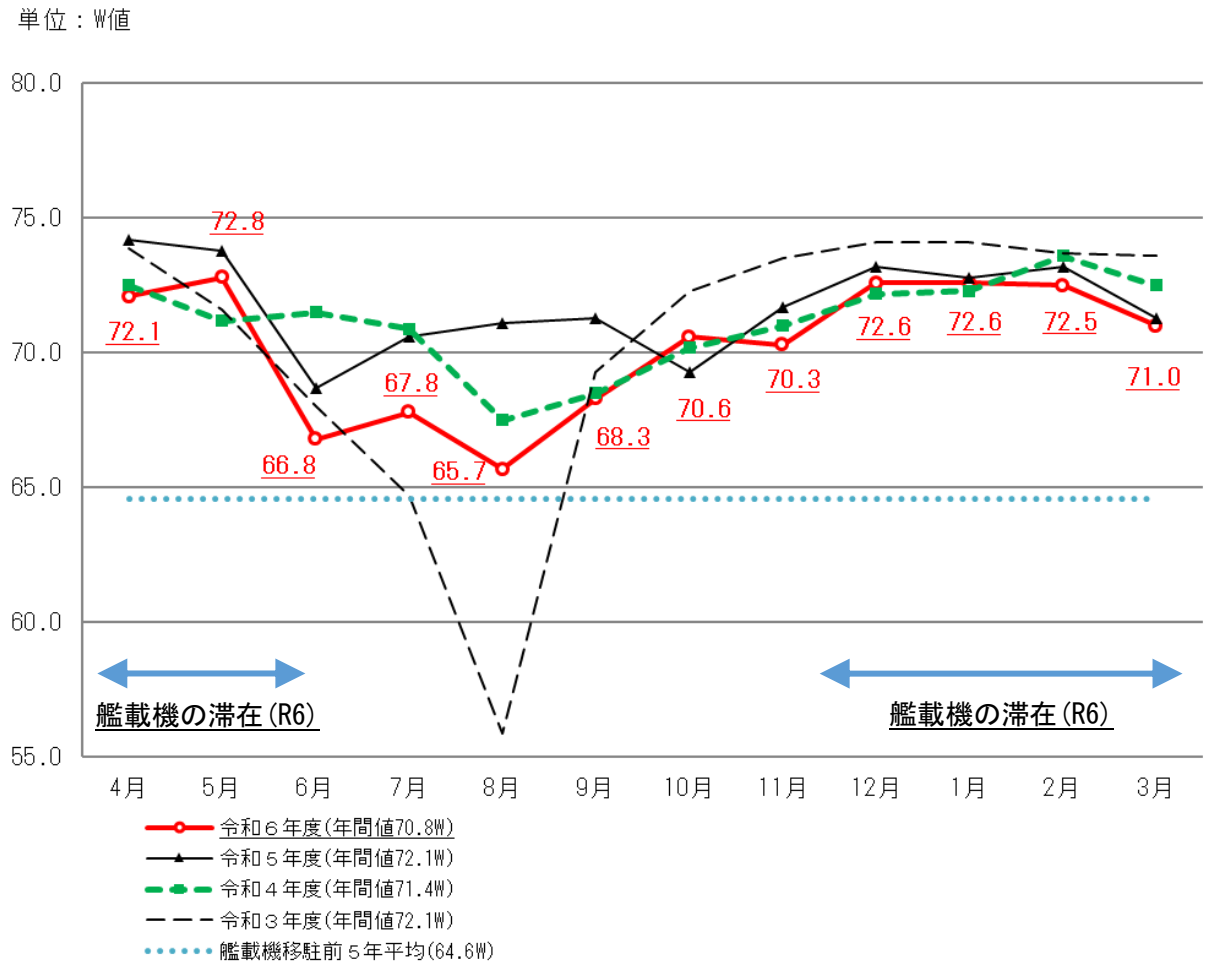
《測定地点の月別・年間W値の騒音程度（令和６年度）》　　（単位：地点）

各地点の月別・年間W値について、５W幅の各区分に該当する地点数を集計した。

W値	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
75～	3	3	1	1	1	1	1	1	3	2	2	1	1
70～74.9	5	7	0	2	0	3	6	7	3	6	6	6	7
65～69.9	8	7	7	5	6	3	8	6	6	6	5	8	5
60～64.9	5	5	8	9	6	7	6	6	7	7	7	6	8
～59.9	13	12	18	17	21	20	13	14	15	13	14	13	13
計	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34

※75W以上…航空機騒音防止法による第１種区域（62Lden）に相当
（通年で 75W以上を記録している地点のうち、１地点は滑走路に隣接）

《月別W値の推移の例：岩国市三笠町》



（２）過去の測定値との比較

① 空母艦載機移駐後（平成３０年度～令和５年度）との比較

【令和５年度との比較】

比較可能な２８地点中２７地点でW値が減少した。

【平成３０年度～令和５年度との比較】

比較可能な２８地点中、令和６年度が最大値となったのは１地点（柳井市神代〈基地南西側〉）であった。

② 空母艦載機の移駐開始前５年平均（平成２４～２８年度）との比較

比較可能な２１地点中１９地点で増加した。

《移駐開始前５年平均と比較し増減幅が大きい測定地点》

区分	測定地点名（年間W値の増減幅）
増加	基地北西側 岩国市三笠町(＋６．２)、岩国市新港町(＋５．５)、岩国市川口町(＋４．７) 基地西側（基地近辺） 岩国市旭町(＋４．６)、岩国市車町(＋４．５) 基地北東側（飛行ルート近辺） 廿日市市宮島(＋３．７)、大竹市阿多田島（＋３．１）
減少	基地南東側 周防大島町久賀(▲１．０)、周防大島町浮島（▲０．９）

【参　考】 沖合移設前５年平均(平成１７～２１年度)との比較

《沖合移設前５年平均と比較し増減幅が大きい測定地点》

区分	測定地点名（年間W値の増減幅）
増加	基地北東側（飛行ルート近辺） 大竹市阿多田島(＋４．０)
減少	基地南西側 岩国市由宇町千鳥ヶ丘(▲８．８) 基地西側（基地近辺） 岩国市門前町(▲８．０)、岩国市車町(▲７．０)、岩国市尾津町(▲５．１)

４　航空機騒音への対応

岩国基地周辺の騒音対策については、毎年、国に対し、県による政府要望、山口県基地関係県市町連絡協議会要望を行っており、引き続き、県・地元市町が連携し、状況把握に努めるとともに、国や米側において、要望した取組が進められるよう働きかけていく。

【参　考】

《令和６年度 政府要望（令和６年１１月）（抜粋）》

１　米軍岩国基地に係る安心・安全対策の推進

○　飛行運用に係る騒音軽減措置の実施
- 集中的な飛行訓練について、岩国基地周辺での実施の緩和や訓練場所の分散などの騒音軽減措置の実施
- ＣＱ（空母着艦資格取得訓練）実施時の運用時間帯への配慮
- 「岩国日米協議会」における確認事項等の遵守

○　住民の不安解消に向けた措置の実施
- 住民生活への影響が大きい訓練（外来機によるものを含む）の事前通知
- 航空機の陸揚げや艦船の寄港の際の、必要性や目的、基地での運用方法等の事前の十分な情報提供
- 空母艦載機の滞在状況、配備機の機種更新等の運用や配置に関する迅速かつ適切な情報提供
- ＦＣＬＰ（空母艦載機着陸訓練）の予備施設指定からの除外
- ＦＣＬＰの恒常的な訓練施設（滞在可能な施設を含む）の早期整備

○　国による騒音対策の拡充
- 騒音測定器の増設など、艦載機移駐後の騒音状況の更なる実態把握
- 住宅防音工事の事務所・店舗等への拡大や艦載機滞在時の状況に対応した対象区域の見直しなど、地域の実情に即した防音対策

《令和６年度 山口県基地関係県市町連絡協議会要望（令和６年８月）（抜粋）》

Ⅰ　騒音対策の強化

１　岩国基地における航空機騒音等の軽減
- ○　飛行運用に係る騒音軽減措置の実施（集中的な飛行訓練の実施の緩和など）
- ○　「岩国日米協議会」における確認事項の遵守（飛行方法や運用時間等に関する確認事項の遵守など）
- ○　ＦＣＬＰの禁止（岩国基地の予備施設指定からの除外など）
- ○　航空機の運用や飛行実態等に関する情報提供等（外来機によるものを含む、住民生活への影響が大きい訓練の事前通知など）

２　住宅防音工事等、騒音対策の充実
- ○　住宅防音工事対象の拡充（第１種区域の見直しにおける艦載機滞在時等の騒音状況の反映など）